

みやぎ連携復興センター

事業報告書

平成 23 年 3 月 18 日～平成 24 年 5 月 31 日



目 次

1. みやぎ連携復興センターの設立経緯と目的

および取り組み -----2

- (1) 2011年3月18日～6月30日 ---2

- ① 設立からの流れ -----2

- ② 震災直後の活動 -----3

- ア) 支援活動拠点提供 -----3

- イ) 情報交換会 -----3

- ウ) 資金提供 -----3

- エ) 物資マッチング -----3

- オ) その他マッチング -----4

- カ) 会議等への参加 -----4

- キ) その他 -----6

- (2) 2011年7月1日～2012年5月31日 -----6

- ① 事務局体制 -----7

- ア) スタッフ体制 -----7

- イ) 事務局経営会議 -----7

- ② つなぐ事業 -----8

- ア) 新れんぷくキックオフイベント -----8

- イ) 国際協力NGOネットワーク会議 -----8

- ウ) 仮設住宅支援者支援セミナー -----8

- エ) 3県連携復興センター会議 -----9

- オ) 市町キャラバン -----10

- カ) 女川協議会 -----11

- キ) 「ゆるやか南三陸」ネットワーク -----11

- ク) 多・塩・七会議 -----11

- ケ) 岩沼市市民交流サロン -----12

- コ) 名取市震災復興支援活動情報交換会 -----13

- サ) 石巻災害復興支援協議会 -----13

- シ) 気仙沼NPONGO連絡会 -----14

- ス) 気仙沼市仮設分科会 -----15

- セ) 東松島復興協議会 -----15

- ソ) れんぷく -----15

- 定例会 -----15

- タ) 被災者支援連絡調整会議 -----16

- チ) 子ども支援会議 -----17

- ツ) 医療・福祉関係の復興担い手会議 -----18

- テ) 障害福祉団体等との意見交換会 -----18

- ト) 宮城県社会福祉協議会 震災復興定例支援会議 -----19

- ナ) 宮城県サポートセンター支援事務所連絡会 -----20

- ニ) 地域コミュニティ支援連絡会 -----20

- ヌ) 生活不活発病予防勉強会 -----20

- ネ) 気仙沼大学ネットワーク -----22

- ノ) JCN現地会議 -----22

- ハ) 石巻の支援をつなぐ会 -----23

- ヒ) 個別相談 -----23

- フ) 支援物資コーディネート -----25

- ③ はぐくむ事業 -----26

- ア) 復興チャレンジ塾 -----26

- ④ しらべる事業 -----26

- ア) 応急仮設住宅生活環境調査 -----26

- イ) NPO等による震災復興支援活動実態調査 -----27

- ⑤ その他 -----29

- ア) Datefm クレッシュェンドへの協力 -----29

- イ) 復興庁によるNPO/NGO向け政府予算説明会 -----30

1. みやぎ連携復興センターの設立経緯と目的および取り組み

(1) 2011 年 3 月 18 日～6 月 30 日

震災から 1 週間後の 3 月 18 日にみやぎ連携復興センター(以下、れんぷく)は発足した。当初は、政府や県、自衛隊、NPO/NGO、その他の自治体などとも連携しながら、支援団体間の連絡と調整を行う機能を果たした。避難所のアセスメント(調査)を通じて把握したニーズに対し、全国から寄せられた物資・人材のマッチングをする活動を、被災者が避難所から仮設住宅に移り始めた 6 月頃まで展開した。

① 設立からの流れ

○3 月 18 日

せんだい・みやぎNPOセンターの定例理事会にて、「みやぎ連携復興センター(準備室)」の立上げが決定された。その後、せんだい・みやぎNPOセンター単体での運用ではなく、他団体との連携が話し合われた。

○3 月 25 日

「みやぎ連携復興センター」(れんぷく)として正式に設立。以下の 5 団体を構成団体とした。

構成団体: (認定特活) ジャパン・プラットフォーム(JPF)

仙台青年会議所

(一般社団) パーソナルサポートセンター(PSC)

被災者を NPO とつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

(特活) せんだい・みやぎ NPO センター

協力団体: 国際協力 NGO センター(JANIC)

せんだいファミリアマルシェ実行委員会

日本赤十字社、(後に加わった団体含む)

○3 月 29 日

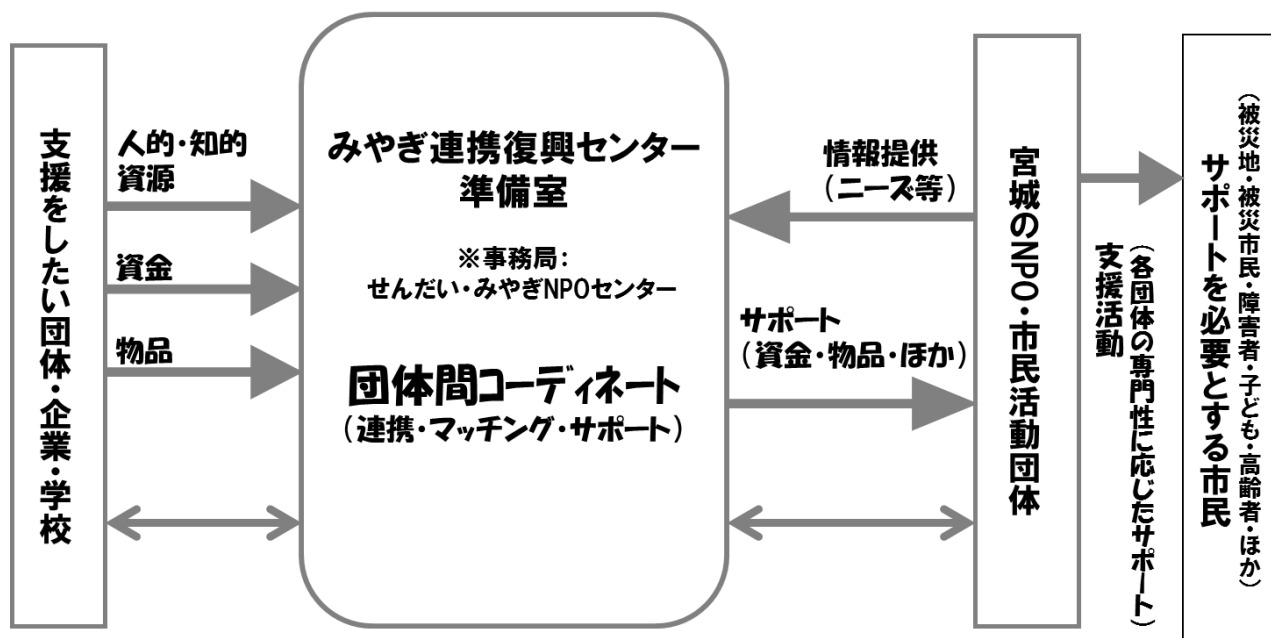
上記、構成団体および協力団体等が参加し、日々の支援活動の情報共有を行うことを目的に、第1回れんぷく定例会議を開催した。この日以降、土日含む毎日開催した。

○6 月 7 日

この日以降、定例会議が毎週 1 回(火曜日)開催となる。

「れんぷく」立ち上げ当初の事業イメージ図

* 団体間コーディネートが主事業と想定されていた。



② 震災直後の活動

ア) 支援活動拠点提供

3月17日以降、県外の支援団体であるつなプロ、JPF等に活動拠点を提供した。

イ) 情報交換会

NPO等のネットワーキングのための情報交換会を開催した。6月30日までに計2回開催した。

- ・5/16 NPO ネットワーク会議 in 仙台 80 団体参加
- ・6/13 NPO ネットワーク会議 in 石巻 48 団体参加

ウ) 資金提供

震災後、せんだい・みやぎNPOセンターとして県内外からの寄付金の受け皿をつくり、のべ29団体、総額1,300万円を提供した。

エ) 物資マッチング

3.11 直後より、NPO や企業から様々な物品提供があった。提供された物品は、れんぷくを経由し、その多くが宮城・岩手のNPOに提供された。以下、主たる物品提供の例。(敬称略)

- ・国連世界食糧計画(WFP)より物資保管用テント3張り(2011年10月には終了)
- ・日本財団より段ボール900箱、文具コンテナ4台分
- ・株式会社システム14より女性用Tシャツ1350枚

- ・株式会社デンソーより業務用冷蔵庫4棟
 - ・特活)イーパーツより中古 PC50台と新品プリンター20台
 - ・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援 P)より新品 PC60台
 - ・公益社団)日本フィランソロピー協会よりコーヒー500袋
 - ・TMJ グループより中古トラック(1.5t)1台
 - ・株式会社デンソーより愛知県刈谷市の放置自転車290台
 - ・茨城車輛販売よりマスク 3 千枚、おしぼり2万5千枚、発砲スチロール食器1万2千食分
 - ・株式会社クラレより清掃用ウェス(ふきん)600ケース
 - ・キーコーヒー株式会社より珈琲豆50箱
 - ・スタンレー電気株式会社より LED 電球8千個
 - ・ATC(台湾)より米57t
 - ・プルデンシャル生命保険株式会社より中古 PC850台
 - ・宮城県より全国から集まった支援物資
- ※この他にも、世界や日本全国から提供された様々な物資を地元につないだ。

オ) その他マッチング

約 140 件(3/15～6/30)

<例>

- ・ボランティアに行きたいが、問い合わせ先は?・どんなボランティアがあるか?
- ・〇〇(物資)が欲しいが、どこに連絡すればいいか?
- ・寄付金を募ったが、どうすればいいか?どこに送るといいか?

などの問い合わせ(電話、メール、訪問)に対応した。全ての案件を記録に残せている訳ではないので、その数を含めると、この期間は 1 日に 40 件以上も対応した計算になる。

カ) 会議等への参加

<参加>

・宮城県災害ボランティアセンター定例会議

宮城県社会福祉協議会が 2011 年 3 月 29 日に発足した「協働型災害ボランティアセンター」の協働団体として協力を行った。定例会議に参加し、情報共有・提供を行った。

・被災者支援4者連絡会議

宮城県、内閣府現地対策本部、自衛隊、ボランティア(宮城県社会福祉協議会、JPF、せんだい・みやぎ NPO センターなど、NPO/NGO)は、被災者を支援していくにあたり、被災地やボランティア活動に関連する情報を共有するとともに、効果的なボランティア活動の展開の方向性やボランティア活動にあたっての支援方策を検討することを目的に被災者支援 4 者会議を開催した。加えて、現地の行政、災害ボランティアセンター・NPONGO、自衛隊による三者会議も実施された。

【被災者支援 4 者連絡会議 開催日時】

第 1 回:2011 年 4 月 4 日(月)20:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 2 回:2011 年 4 月 7 日(木)20:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 3 回:2011 年 4 月 11 日(月)20:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 4 回:2011 年 4 月 13 日(水)20:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 5 回:2011 年 4 月 15 日(金)11:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 6 回:2011 年 4 月 18 日(月)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 7 回:2011 年 4 月 19 日(火)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 8 回:2011 年 4 月 21 日(木)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 9 回:2011 年 4 月 25 日(月)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 10 回:2011 年 4 月 27 日(水)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 11 回:2011 年 4 月 28 日(木)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 12 回:2011 年 5 月 2 日(月)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 13 回:2011 年 5 月 10 日(火)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 14 回:2011 年 5 月 12 日(木)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 15 回:2011 年 5 月 18 日(水)19:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
第 16 回:2011 年 7 月 12 日(火)15:00～ @宮城県庁 11 階 第 2 会議室
※これ以降は、「被災者支援連絡調整会議」として開催。

【被災者支援 4 者連絡会議の成果】

・炊き出し:

▽石巻市で定期的に三者会議を実施し、行政、自衛隊、NPOで約 30,000 食分をカバーした。
▽気仙沼市で自衛隊とNPOで役割分担を決め、NPONGO側は主に副食の提供を行う協力を行った。
▽在宅避難者の温食のニーズについて、三者会議で情報共有を行い、対策を実施した。

・応急仮設住宅対応:

▽宮城県内の 11 市町において、スターターキット約 23,000 セットを仮設住宅へ提供した。

・GWボランティア対応:

▽気仙沼市、女川市、石巻市、東松島市等の災害ボランティアセンターに、県、NPO、企業から応援人員を派遣し、ボランティア・バスの受け入れ態勢を整えた。

・政府の被災者支援制度の紹介:

▽漁業や事業者に関する債権支援制度について、NPO側が疑問点を行政に直接質問し、明確化した。
▽石巻では、NPONGO等が運営する災害復興支援協議会のホームページで支援制度のリンクをとりまとめ掲示した。

キ) その他

<視察>

- ・2011 年 4 月 4 日 政府の視察団が定例ミーティングを視察した。
- ・2011 年 4 月 9 日 内閣官房震災ボランティア連携室室長、湯浅誠氏が定例ミーティングを視察した。
- ・2011 年 4 月 11 日 内閣府「たすけあいジャパン」視察団の対応を行った。

<アセスメント>

- ・2011 年 4 月 多賀城市内の避難所(個人)アセスメントを実施した。

<電話相談>

- ・2011 年 5 月 いのちの電話と協働し、被災者のための電話相談窓口を開設した。告知カード 1 万枚を避難所に配布した。
- ※上記のほか、炊き出し支援、物資仕分け支援、など多数実施した。

(2)2011 年 7 月～2012 年 5 月 31 日

緊急性の高い支援の必要性が少しずつ減少し、被災地のフェーズが復旧から復興へと移行しつつあった 2011 年 7 月、れんぷくでは復興に向けたビジョンを新たに策定した。大きなテーマは、「被災された方が主役の復興」である。未曾有の規模の被害をもたらした今回の震災においては、復興までの道のりは非常に長いものとなるため、被災された方自身が主役となって復興に取り組むことが、そのまま中長期的なまちづくりにつながるという信念のもと、3 つの活動の柱をたてた。(1)つなぐ事業、(2)はぐくむ事業、(3)しらべる事業、である。

みやぎ連携復興センターの位置付け

地域主導の自律的な復興とまちづくりの実現

復興をめざす地域の市民の元に
必要とする支援が届く

(※市民：避難所・仮設住宅・在宅等の被災者の方々)

宮城県全域でのNPO・企業・市民活動団体・行政等
各セクターの復興支援の担い手同士の協働

みやぎ連携復興センター

(※事務局：せんだい・みやぎNPOセンター)

主たる役割

- ①担い手同士の連携
- ②担い手の育成

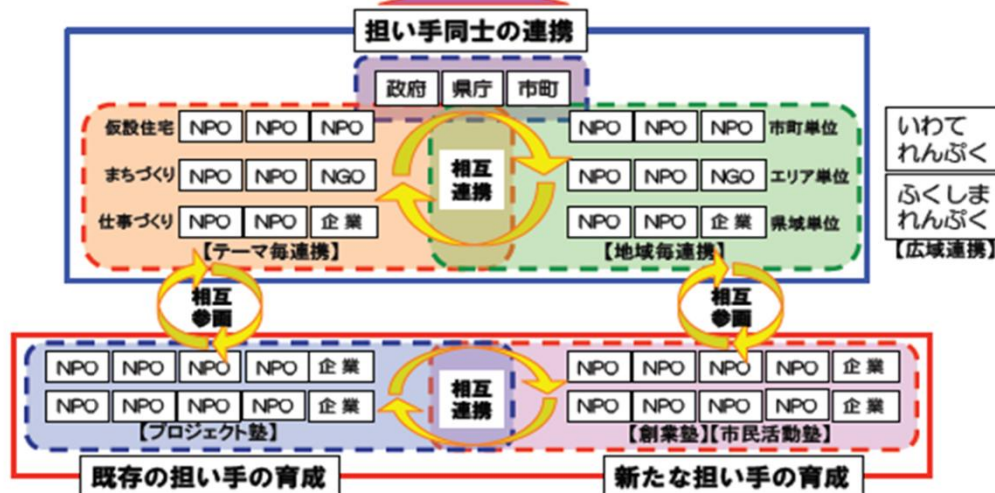
・資金 ・知的/人的資源等

支援をしたいNPO・企業・市民活動団体等

みやぎ連携復興センターの役割 詳細

地域主導の自律的な復興とまちづくりの実現

宮城県全域での各セクターの担い手同士の協働



① 事務局体制

ア) スタッフ体制(2011年9月～2012年5月31日)

- ・代表 紅邑晶子
- ・事務局長 佐野哲史
- ・事務局次長／つなぐ事業チーフ 真壁さおり
- ・しらべる事業チーフ 児玉光也 (JPFから出向)
- ・はぐくむ事業チーフ 青木ユカリ (コミュニティワークス)
- ・三浦隆一 (JPFから出向)
- ・藤田研 (NPO法人ETIC.の右腕事業より派遣)
- ・佐藤梨緒 (NPO法人ETIC.の右腕事業より派遣)

イ) 事務局経営会議

2011年10月中旬から、毎週火曜日の9:00から事務局会議を行い、事務局体制の構築に努めた。また、2012年からは下記のとおり事務局経営会議を開催し、れんぶく事業戦略の明確化を図った。

【れんぶく経営会議開催日時(2012年1月以降)】

- ☐ 2012年1月18日(水)12:00-16:00
- ☐ 2012年1月24日(火)13:30-16:00
- ☐ 2012年2月7日(火)13:30-16:00
- ☐ 2012年2月21日(火)13:30-15:30
- ☐ 2012年2月28日(火)13:30-16:00
- ☐ 2012年3月6日(火)13:30-15:30

- 2012 年 3 月 13 日 (火) 13:30-15:30
- 2012 年 3 月 21 日 (水) 13:30-16:00
- 2012 年 3 月 27 日 (火) 13:30-16:30
- 2012 年 4 月 3 日 (火) 13:30-16:30
- 2012 年 4 月 17 日 (火) 14:00-18:00
- 2012 年 4 月 24 日 (火) 13:30-16:15
- 2012 年 5 月 8 日 (火) 13:30-15:15
- 2012 年 5 月 15 日 (火) 13:30-15:30
- 2012 年 5 月 22 日 (火) 15:30-17:30



② つなぐ事業

ア) 新れんぷくキックオフイベント

2011 年 7 月 17 日 (日) @仙台市市民活動サポートセンター 22 団体参加

イ) 国際協力 NGO ネットワーク会議

宮城県内における NGO の活動状況の把握および活動紹介等の意見交換を行うことを目的に、れんぷく、JPF、JANIC が共催しネットワーク会議を実施した。

2011 年 8 月 22 日 (月) @仙台市市民活動サポートセンター 28 団体参加



ウ) 仮設住宅支援者支援セミナー

れんぷく、JANIC が共催し、東日本大震災支援「仮設住宅における住民自治コミュニティづくり」と題して以上 3 点を主な開催目的としセミナーを開催した。

・被災地支援活動に取り組む団体に対して、支援の指針のヒントとなる知見を提供すること

- ・被災地支援活動に取り組む団体同士の連携のテーマと場を提供すること
- ・被災地支援活動に取り組む団体と県・市町等行政担当者、市町社協の連携のテーマと場を提供すること

○プログラム構成

- ・基調講演(田村太郎氏 内閣官房震災ボランティア連携室企画官)
- ・パネルディスカッション
- ・各地域による連携会議(市町行政、社会福祉協議会、NGO・NPO)

➤ 2011年8月28日(日)14時～17時@石巻羽黒会館

パネルディスカッションゲスト:(特活)石巻スポーツ振興サポートセンター理事長 松村善行氏

24団体 49名参加

➤ 2011年8月29日(月)@仙台市市民活動サポートセンター

パネルディスカッションゲスト:一般社団法人 パーソナルサポートセンター 事業部代表立岡 学氏

ADRA Japan(アドラ・ジャパン) 国内事業、防災担当 渡辺 日出夫氏

23団体 44名参加



エ) 3県(宮城、岩手、福島)連携復興センター会議

3県の連携復興センターが、定期的に情報交換の機会を持ち、質や効果が高まる領域の支援活動を協働で行う(応急仮設住宅のアセスメントなど)ことにより、国への提言等を促進させる。また阪神淡路大震災や、中越地震等も含めた知見を研究、共有することで、社会資源の活用を円滑化することなどを目的に掲げ以下のとおり会議を実施した。

第1回:2011年8月30日(火)10:00～12:00(仙台)

第2回:2011年9月27日(火)13:00～18:00(仙台)

第3回:2011年11月1日(火)13:00～15:30(盛岡)

第4回:2011年12月7日(水)、8日(木)(福島)

第5回:2012年1月16日(月)、17日(火)(仙台)

第6回:2012年2月13日(月)(東京)

2012年2月14日(火)9:00～11:30 復興庁との意見交換会

第7回:2012年4月11日(水)14:00～18:00(仙台)

第8回:2012年5月17日(木)、18日(金)(神戸視察)



オ) 市町キャラバン

8月5日(金)、8日(月)、9日(火)、れんぷくの説明と被災市町との協働を促進するため、宮城県内被災11市町(南三陸町、女川町、石巻市、東松島市、七ヶ浜町、塩釜市、多賀城市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町)を訪問した。

参加者: 内閣府、政府統括官(防災担当)付企画官、森氏

内閣府政策統括官付、参事官付、国際防災協力担当主査付 橋詰氏

宮城県社会福祉課長 山口氏

JPF、PSC、難民を助ける会、れんぷく



カ) 女川協議会

震災後、JPF 山中氏がコーディネーターとなり、町、社協、支援団体等の会合を行っていた。2011 年の夏に、れんぷくとして会合に参加。しかし、2011 年夏以降、協議会の開催はいったん中断している。山中氏によるコーディネートは現在も行われている。

キ) 「ゆるやか南三陸」ネットワーク

南三陸町で活動するNPONGO等が参加する「ゆるやか南三陸」ネットワーク会議が開催された。始まりは「ゆるやかにつながる」ことを目的としたミーティングであったが、行政や社協と連携をとって行動していく段階に入り、新たに情報交換が出来る場が必要との議論から、2012 年 3 月 8 日(@入谷公民館)を持って定期会議は終了となった。

れんぷくはオブザーバー参加し情報収集を行った。

ク) 多・塩・七連絡会

多賀城市・塩釜市・七ヶ浜町は、互いに隣接していながら、支援団体どうしが顔を合わせて情報交換をする機会が無かった。支援団体等より、そのような場づくりに対する要望が多く挙がっていたことを受け、3 地域で活動する支援団体に呼び掛けを行い、情報交換会を開催した。

○第 1 回情報交換会の開催

2012 年 2 月 16 日(木) 19:00-21:00、塩釜市公民館図書室にて、多賀城・塩釜・七ヶ浜地域で活動する支援団体による第 1 回情報交換会を開催した。

3 地域より計 10 団体(多賀城:4、塩釜:2、七ヶ浜:4)が参加した(参加団体名は後述)。同会にて初めて顔を合わせる団体も多かったため、それぞれの団体より活動内容をご紹介頂くと共に、現在抱える課題や今後の展望についても共有した。

複数の団体から挙げられた課題として、連携可能な団体の発掘や他団体との情報共有があったが、同会の開催が以後の連携強化に向けた足掛かりとなったものと思量する。

また、財源の確保についても多くの団体が課題としており、中には費用の大部分をメンバーの自費で賄っている団体もあった。同会では、助成プログラムを展開している地域創造基金みやぎ(さなぶりファンド)及びせんだい・みやぎ NPO センターの各担当者より、現在募集中の助成金や物資支援に関する情報提供を行った。

○参加団体

【多賀城】地球の楽好、復興応援団、蓮笑、多賀城市市民活動サポートセンター

【塩釜】ビルド・フルーガス、塩釜市婦人会

【七ヶ浜】レスキューストックヤード、アクアゆめクラブ、ASTRA、ボディヶ浜

【その他】地域創造基金みやぎ、せんだい・みやぎ NPO センター、ジャパン・プラットフォーム

ケ) 岩沼市市民交流サロン

「協働のかけはし隊(岩沼市協働のまちづくり推進会議有志)」と岩沼市さわやか市政推進課が主催でサロンを開催。岩沼市の復興支援活動の推進のため市民の情報・意見交換の場を提供することが目的。れんぷくは、アドバイザーとして各回参加。2012 年度は、「復興チャレンジ塾」の 10 万円を財源に、計 3 回のサロン開催を企画中。

➤ 第 1 回:2011 年 12 月 23 日(金・祝) @中央公民館 視聴覚室

・テーマ「市民活動を進めるためには」

・参加者数 25 名

<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/kakuka/010600/010604/documents/23.12.23siminkatudoukouryuusaron.pdf> (詳細報告書)



➤ 第 2 回:2012 年 1 月 21 日(土)10:00～12:00 @中央公民館 視聴覚室

・テーマ「市民活動団体の活性化」

・参加者数 21 名

<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/kakuka/010600/010604/documents/24.1.21siminkatudoukouryuusaron.pdf> (詳細報告書)

➤ 第 3 回:2012 年 2 月 25 日(土)10:00～12:00 @中央公民館 視聴覚室

・テーマ「市民活動団体の活性化」

・参加者数 25 名

<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/kakuka/010600/010604/documents/24.2.25siminkatudoukouryuusaron3.pdf> (詳細報告書)

➤ 第 4 回:2012 年 3 月 31 日(土)10:00～12:00 @市民会館 中ホール

・テーマ「元気なまちと市民活動団体の性化」

・参加者数 50 名

<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/kakuka/010600/010604/documents/24.3.31.shiminkatudoukouryuusaron.pdf>（詳細報告書）

コ) 名取市震災復興支援活動情報交換会

名取市の主催で開催し、のべ 25 団体 38 名の参加があり、各団体の被災後の取り組みや、被災から現在までの状況について共有した。

2 回目に実施した課題共有では、心のケア、子どものケア、団体間やセクター・地域を超えた連携の必要性、地域の自主性の大切さ、被災者の声を聞くこと、住環境の整備、名取の歴史や植生などを継承したまちづくりなど、さまざまな課題があげられ、そのために自分たちができることは何か、活発な意見交換が行われた。れんぷくは、震災復興活動の中間支援組織として参加した。



➤ 第 1 回:2011 年 11 月 19 日(土)10:00～12:00 @名取市文化会館 1 階会議室

・参加:13 団体 18 名

・内容:名取市から被災状況など説明、各団体自己紹介、情報交換

➤ 第 2 回:2012 年 2 月 5 日(日)10:00～12:00 @名取市文化会館 1 階会議室

・参加:12 団体 20 名

・内容:名取市から情報提供、各団体自己紹介、名取の復興の課題共有、情報交換

サ) 石巻災害復興支援協議会

石巻市では、石巻市を拠点として災害復興支援に関わる NPO、NGO、個人等が、震災直後から相当数活動し、炊き出し等の多様な活動を大規模に行った。

このような大規模な支援活動を重複なく実施するための調整機関として、「NPO・NGO 支援連絡会」を発足させた。3 月 20 日に第 1 回の NPO/NGO 連絡会を開いて以来、毎日協議会を開催して情報共有を進めた。

その後、4 月 2 日、連絡会の機能を継続しつつ、長期的な視野を持ち主体的な活動をすべく「石巻災害復興支援協議会」を発足。2011 年 5 月 26 日に一般社団法人化。2011 年 8 月 23 日現在の登録団体数は 290 を超えた。また、被災直後からフィールド別の 11 分科会を設置し、調整しながら支援に取り組んでいる。

2011 年度は JPF 中川氏が協議会に出向する形で情報共有を図った。れんぷくとしてもオブザーバー

参加し、情報共有、提供を行った。2012年4月以降、協議会の組織改編が予定されており、今後の連携の方向性については検討中。

シ) 気仙沼NPONGO連絡会

震災後、気仙沼市では、多くの県外、市外からのNPONGOが活動している。2011年5月13日に、8団体と市社協が参加しての会合が開催され、支援団体の連絡調整機関の必要性が確認された。2011年6月より「気仙沼NPONGO連絡会」として、毎週金曜日に会合が開催されている。毎回15～20団体のNPONGO、市社協、市まちづくり推進課等関連行政担当課などが参加し、情報共有や共通する課題の整理、対策を検討するなどの調整を行っている。

JPF佐藤氏が連絡会の進行等のお世話役を担い、2011年9月からは、れんぷくからも出来る限り参加して情報共有・提供を行っている。

2011年12月には仮設住宅支援の方向性を考えるワークショップの開催を提案・実施した。

■気仙沼市 仮設住宅支援を考えるワークショップ～住民主体のコミュニティづくりのために～

●ワークショップの目的

- ①現在それぞれの団体が行っている仮設住宅支援の課題を整理・共有する。
- ②ニーズを先読みし課題解決策のアイデアを出し合う。
- ③気仙沼版の仮設住宅支援の目標感の共有化を図る。

2011年12月5日(月)13:00～16:00@気仙沼市民健康管理センター「すこやか」1階ホール

ゲスト・アドバイザー:

内閣官房東日本大震災復興対策本部事務局 震災ボランティア班 田村太郎氏

参加者:37名



ス) 気仙沼市仮設分科会

気仙沼 NPONGO 連絡会に参加している団体の中から、仮設住宅の支援を行う団体や市の関連課、市社協などが参加し、月に 1 回程度開催している。課題に応じた情報共有と対応策の検討などを行う。

れんぷくとしては、「応急仮設住宅生活環境調査」の結果報告や、「石巻在宅支援モデル」を紹介するなど、活動に役立つ情報の提供を行っている。

セ) 東松島復興協議会

東日本大震災の復興支援のために、東松島地域において支援活動をしている団体が集まり、2011 年 9 月 28 日に設立した。

東松島復興協議会の目的は、東松島地域での復興に資する活動を行うこととし、以下の事業を行っている。

- 1 東松島で活動する各団体間の情報共有・連携の促進
- 2 東松島市・東松島市社会福祉協議会との情報共有・連携、提言
- 3 地域社会における人材の育成
- 4 他地域団体との情報共有・連携
- 5 その他目的を達成するために必要な事業

発足後、JPF がメンバーとして毎月 1 回開催される協議会に参加しており、2011 年 10 月以降からは、れんぷくとしても参加。情報共有、提供、団体間調整等を行っている。

【参加団体は下記の 20 団体(五十音順:2011/10/5 現在)】

認定 NPO 法人アジア日本相互交流センター(アイキャン)、大田区被災地支援ボランティア調整センター、学生による地域支援活動団体みまもり隊、教育を考える親たちの会、くれ災害ボランティアセンター(チームひろしま)、独立行政法人国際協力機構東北支部、災害復興支援コーディネーター蓮笑、サポートチーム G、NPO 法人 CFF、JR 東労組仙台地方本部、児童養護施設支援の会、NPO 法人ジャパン・プラットフォーム、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、日本ナザレン教団国際援助委員会、社会福祉法人東松島市社会福祉協議会、NPO 法人東松島まちづくり応援団、復興支援団体プラスネオ、まちづくり NPO げんき宮城研究所、公立大学法人宮城大学地域連携センター、やっぺし東北

ソ) れんぷく定例会

構成団体および協力団体等が参加し、日々の支援活動の情報共有を行うことを目的に、れんぷく定例会議を開催した。2011 年 3 月 29 日以降、土日含む毎日開催した。

6 月 7 日以降は、毎週 1 回(火曜日午前中)開催となる。

【れんぷく定例会開催日程】

- 2011 年 6 月 14 日(火)、21 日(火)、28 日(火)
- 2011 年 7 月 6 日(水)、12 日(火)、20 日(水)、26 日(火)
- 2011 年 8 月 3 日(水)、9 日(火)、16 日(火)、23 日(火)
- 2011 年 9 月 1 日(木)、6 日(火)、13 日(火)、20 日(火)、27 日(火)

- 2011年10月4日(火)、11日(火)、18日(火)、25日(火)、31日(月)
- 2011年11月8日(火)、15日(火)、22日(火)、29日(火)
- 2011年12月6日(火)、13日(火)、20日(火)
- 2012年1月10日(火)、16日(月)、24日(火)、31日(火)
- 2012年2月7日(火)、21日(火)、28日(火)
- 2012年3月6日(火)、13日(火)、22日(木)



タ) 被災者支援連絡調整会議

2011年8月から、宮城県で活動する支援団体と宮城県庁各部署の担い手が一体となり、個別の地域事情を踏まえた復旧・復興を、実現するための情報及び意見交換を目的として「被災者支援連絡調整会議」を実施した。

会議では、(1)県より地域で活動する支援団体に、国(復興庁)、県、市町自治体等の復興に向けた施策の情報(支援団体や被災者に役するリソース情報や支援情報)を伝え、(2)地域で活動する支援団体より国、県、市町自治体など官側に対して、当該地域の復旧・復興の実情や課題等を共有した。(これまで5回実施)。

【被災者支援連絡調整会議 開催日程】

- 第1回:2011年8月5日(金)15:00～17:00 @宮城県庁 11階 第2会議室
- 第2回:2011年9月8日(木)15:00～17:00 @宮城県庁 17階 労働者控室
- 第3回:2011年12月22日(木)16:00～18:00 @宮城県庁 4階 庁議室
- 第4回:2012年2月15日(水)15:30～18:30 @漁信基ビル
- 第5回:2012年5月30日(水) 13:30～16:30 @宮城県庁 4階 庁議室

【参加者(※参考:第5回参加者)】

復興庁宮城復興局、東北厚生局、震災復興・企画部震災復興推進課、震災復興・企画部地域復興支援課、環境生活部共同参画社会推進課、保健福祉部保健福祉総務課、保健福祉部震災援護室、保健福祉部長寿社会政策課、保健福祉部健康推進課、保健福祉部子育て支援課、保健福祉部障害福祉課、土木部復興住宅整備室、保険福祉部社会福祉課、宮城県サポートセン

ター支援事務所、県社会福祉協議会震災復興支援局、県社会福祉協議会地域福祉課
アドラ・ジャパン、国際交流協会ともだち in 名取、パーソナル・サポートセンター／ワン・ファミリー、
仙台青年会議所、カリタス・ジャパン、レスキュー・ストック・ヤード、復興応援団、いしのまきNPOセ
ンター、石巻災害復興支援協議会、石巻復興支援ネットワーク、石巻スポーツ振興サポートセンタ
ー、ワールド・ビジョン・ジャパン、気仙沼NPO／NGO連絡会、気仙沼復興協会、つなプロ気仙沼、
難民を助ける会、プラン・ジャパン、東日本大震災支援全国ネットワーク、国際協力NGOセンター、
(株)電通、せんだい・みやぎNPOセンター／みやぎ連携復興センター、ジャパン・プラットフォーム

チ) 子ども支援会議

○形成・開催経緯

子ども支援会議は、東日本大震災における教育物資支援の調整を目的として結成されたグループ
(宮城県スポーツ健康課・義務教育課、日本ユニセフ協会、ワールド・ビジョン・ジャパン、プラン・ジャパ
ン、セーブ・ザ・チルドレン、ジャパン・プラットフォーム)に端を発す。定期的な会合の開催を通じ、2011
年 6 月頃には被災した小・中学校からの要請にほぼ対応することができたため、緊急支援物資の調整とい
う名目での会合は終了した。しかし、子どもたちに対する「心のケア」の必要性が指摘されたことから、引
き続き同グループにて隔週で会合を開催し、子ども及び保護者、教員の心のケアに関する情報交換・調
整等の連携を継続した。

2011 年 8 月からは更に枠を広げ、①住環境、②食環境、③学習環境の整備・就学支援、④心のケア、
⑤乳幼児・親への支援、⑥親・保護者支援 の 6 つを支柱とした「子ども支援会議」の開催を開始した。
以降現在まで、月 1 回の定例会(下記開催日程参照)に加え、心のケアや子ども参画等に関する分科会
も開催している。

尚、2011 年 9 月より JPF が会議の運営及び議事録作成を担当していたが、2012 年 2 月以降はれん
ぶくが担当している。

【子ども支援会議 開催日程】

- ・2011 年 8 月 1 日(月) 9:00-11:00 @宮城県庁 9 階
- ・2011 年 8 月 24 日(水) 9:00-11:00 @宮城県庁 9 階第 1 会議室
- ・2011 年 9 月 26 日(月) 10:00-12:00 @自治会館 2 階 200 会議室
- ・2011 年 10 月 26 日(水) 10:00-12:00 @魚信基ビル 5 階 502 会議室
- ・2011 年 11 月 28 日(月) 10:00-12:00 @魚信基ビル 5 階 502 会議室
- ・2012 年 1 月 11 日(水) 10:00-12:00 @自治会館 2 階 200 会議室
- ・2012 年 2 月 15 日(水) 10:00-12:00 @宮城県庁 10 階 1001 会議室
- ・2012 年 3 月 12 日(水) 10:00-12:00 @宮城県庁 10 階 1001 会議室
- ・2012 年 4 月 16 日(月) 10:00-12:00 @宮城県庁 11 階 1101 会議室
- ・2012 年 5 月 14 日(月) 10:00-12:00 @自治会館 2 階 204 会議室
- ・2012 年 6 月 18 日(月) 10:00-12:00 @自治会館 2 階 200 会議室(予定)

○主な成果

・被災児童・生徒に対する学用品支援:

宮城県内 34 市町村(仙台市を除く)のうち、29 市町村(10 市 18 町 1 村)より要望が接到。小学生 8,436 名、中学生 4,392 名(計 12,828 名)に対し、201,935,278 円の支援を実施。

・津波被災校に対する体育用品支援:

日本ユニセフ協会、日本赤十字社、セーブ・ザ・チルドレン、プラン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、災害子ども支援ネットワークにより、合計 148,639,029 円の支援を実施。

・「心のケア」に関するガイドライン作成:

各種国連機関や国際市民団体により構成される機関間常設委員会(Inter-Agency Standing Committee: IASC)が 2007 年に発行した精神保健・心理社会的支援(Mental Health and Psychosocial Support: MHPSS)に関するガイドラインの要約を作成し、心のケア(MHPSS)の指針を共有。

・ボランティア向け行動規範 及び 支援者向けストレスチェックリスト作成:

子どもの保護と安全確保のための行動規範(国際機関のガイドラインより抜粋)

及び支援者向けのストレスチェックリスト(スタッフ用・団体用)を作成し、ボランティアへの配布や、支援者向け研修等に活用。

・子ども支援マッピング:

各団体の支援活動を地域別・分野別にまとめたマッピング表を作成。

○これまでの主な参加団体

【県】教育庁義務教育課、教育庁生涯学習課、教育庁スポーツ健康課、総務部私学文書課、保健福祉部子育て支援課

【NPO/NGO】セーブ・ザ・チルドレン、日本ユニセフ協会、プラン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、シャンティ国際ボランティア、日本赤十字社、災害子ども支援ネットワークみやぎ、アスイク、キッズ・ドア、日本子ども家庭総合研究所、ケア宮城、ジャパン・プラットフォーム 等

ツ) 医療・福祉関係の復興担い手会議

医療・福祉分野の活動を継続していく団体の、学習と連携を目的に会議を開催している。将来的には、長期にわたる復興を実現し継続してゆくための、官と民の共同が「目に見える」場とすることが目標である。3 回目かられんぷくと厚生労働省東北厚生局の共催になった。東北厚生局藤木局長の個人的人脈と、れんぷくのネットワークとを併せた各種団体に告知して参加を促している。また、第 4 回目から、担い手団体による事例発表と質疑応答形式に転換し非常に有意義だった。以降同様に開催していく。

第 1 回:2011 年 8 月 30 日(火)18:00~20:00 @東北厚生局 花京院スクエア 21F

第 2 回:2011 年 11 月 2 日(水)18:00~20:00 @東北厚生局 16 階 会議室

第 3 回:2012 年年 2 月 8 日(水)18:00~20:00 @東北厚生局 16 階 会議室

第 4 回:2012 年 5 月 25 日(金)18:00~20:00 @東北厚生局 16 階 会議室

テ) 障害福祉団体等との意見交換会

宮城県内障害福祉分野の震災復興支援活動について、行政、NPONGOが情報交換を行い、円滑な支援活動を行うため、関連機関、団体が下記のとおり意見交換を行っている。初回からJPFが参加し、れんぷくとして第4回目から参加し、情報収集・提供を行っている。

第1回:2011年5月31日(火)13:30～15:30 @宮城県庁5階 総務部会議室

第2回:2011年8月23日(火)15:00～17:00 @自治会館2階 200、201会議室

第3回:2011年11月8日(火)10:00～12:00 @宮城県庁7階 保健福祉部会議室

第4回:2012年3月29日(火)10:00～12:00 @宮城県庁1701会議室

【参加者(※第4回参加者を参照)】

- ・社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
- ・社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会
- ・社団法人宮城県手をつなぐ育成会
- ・宮城県知的障害者福祉協会
- ・宮城県精神障がい者家族連合会
- ・JDF みやぎ支援センター
- ・特定非営利活動法人難民を助ける会
- ・特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
- ・一般社団法人パーソナルサポートセンター
- ・特定非営利活動法人みやぎセルフ協働受注センター
- ・日本赤十字社 宮城県支部
- ・宮城県保健福祉部障害福祉課(企画推進班、在宅支援班、精神保健推進班、社会参加促進班、施設支援班、企画推進班)

ト) 宮城県社会福祉協議会 震災復興定例支援会議

2012年4月より、宮城県社会福祉協議会が主催で、各社会福祉協議会への派遣職員からの状況報告および、各関連機関からの情報共有・提供を目的とした会議が開催され、れんぷくも関連機関として参加している。

第1回:2012年4月19日(木)9:00～12:00 @宮城県管工事会館9階 会議室

第2回:2012年5月11日(金)10:00～12:00 @宮城県管工事会館9階 会議室

なお、非公式には、2012年2月1日(水)、2月21日(火)、3月14日(水)に宮城県社会福祉協議会とれんぷくのみでの会合を行っている。

【参加者】

宮城県社会福祉協議会、宮城県社会福祉協議会から各市町への派遣職員、宮城県社会福祉課、宮城県長寿社会政策課、宮城県障害福祉課、宮城県子育て支援課、宮城県サポートセンター支援事務所、全国コミュニティライフサポートセンター、みやぎ連携復興センター、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、全国ボランティア・市民活動振興センター、みやぎ災害救援ボランティアセンター

ナ) 宮城県サポートセンター支援事務所連絡会

宮城県サポートセンター支援事務所の立ち上げ後の運営状況や各関係団体との情報交換を行い、各地のサポートセンター業務支援をより円滑に行うことを目的として、連絡会議が開催されている。れんぷくとしては、2012 年 3 月から参加し、サポートセンター支援事務所と協働で実施している「生活不活発病予防勉強会」をはじめ、各地での活動の状況を提供した。

2012 年 3 月 16 日 (金) 13:00～15:00 @JAビル宮城 12 階第 1 会議室

【参加団体】

宮城県社会福祉士会、仙台弁護士会、(特活)チャイルドラインみやぎ、(特活)全国コミュニティライフサポートセンター、(特活)宮城県ケアマネジャー協会、(特活)ワンファミリー仙台、(一般社団)パーソナルサポートセンター、(社福)宮城県社会福祉協議会、みやぎ連携復興センター、宮城県保健福祉部社会福祉課、障害福祉課、長寿社会政策課、子育て支援課、健康推進課等

ニ) 地域コミュニティ支援連絡会

震災後、特に被害の大きかった地域においては、住民による自主的な避難や、応急仮設住宅等での生活の長期化など、住民の生活に大きな影響が及んだ。被災地域における震災後の地域コミュニティのあり方を見直し、地域住民が安心して暮らせる環境を確保するための体制や対策等の情報交換を行い、今後の地域復興支援策を検討することを目的に本会議が実施された。れんぷくは第 7 回から参加し情報収集・提供を行った。

宮城県震災復興・企画部地域復興支援課、宮城大学地域連携センター地域振興事業部、東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会、(特活)都市デザインワークス等のまちづくり系NPOが参加。

第 1 回:2011 年 5 月 9 日 場所:仙台市市民活動サポートセンター

第 2 回:2011 年 5 月 23 日 場所:宮城県自治会館

第 3 回:2011 年 6 月 6 日 場所:宮城県庁舎9階第1会議室

第 4 回:2011 年 6 月 20 日 場所:宮城県本町分庁舎 6 階 603 会

第 5 回:2011 年 7 月 11 日 10:00～12:00 @宮城県庁舎 9 階第 1 会議室

第 6 回:2011 年 8 月 8 日 10:00～12:00 @アーバンネット勾当台 9 階第 2 会議室

第 7 回:2011 年 9 月 12 日 10:00～12:00 @宮城県自治会館 201 会議室

第 8 回:2011 年 10 月 3 日 10:00～12:00 @宮城県震災復興・企画部会議室

第 9 回:2011 年 11 月 14 日 (月) 10:00～12:00 @仙台市市民活動サポートセンターセミナーホール

※これ以降開催休止中

ヌ) 生活不活発病予防勉強会

宮城県長寿社会政策課が所管する「宮城県サポートセンター支援事務所」の平成 24 年度地域交流事業を、れんぷくとの連携・協働で実施する。地域支えあい体制づくり事業を財源とする。内容は、「生活不活発病予防勉強会・事例報告会」等を中心とした住民自治コミュニティ形成事業を行う。東日本大震災による被災者は生活基盤を奪われ、現在仮設住宅等での生活を余儀なくされている。復興にはまだま

だ多くの困難が待ち受けているが、忘れてはならないのは、各被災地における復興の主体は、被災地の住民一人ひとりだということである。今後、その復興の主体となるべき被災者に「生活機能低下」という重大な問題が起きてくることが予想されている。心身のみならず、生活全体の機能が低下することで、復興への主体的な関わりが薄れることが危惧される。防げるはずの生活機能低下を防ぐために、「生活不活発病」等のテーマを中心として、正しい知識と実践による事例の交換、学び合いの機会が必要である。平成 24 年度は、宮城県長寿社会政策課が県全体としての大きな方針を市町自治体に示していくことになった。

実施場所は、宮城県内被災市町(特に津波被害の大きかった 13 市町)を対象とする。

【実施終了報告】

・気仙沼:

2012 年 3 月 19 日(月) 午後 14:00～16:30 @気仙沼市民健康管理センターすこやか多目的ホール
タイトル:生活不活発病予防勉強会～高齢者の智恵と能力を活かす環境づくりを考える～

講師:大川 弥生氏 (独立行政法人 国立長寿医療研究センター 生活機能賦活研究部 部長)

参加者:90 名

サポートセンター(4 か所)の職員(生活相談員、看護師等)

気仙沼市高齢介護課(友愛訪問員、交流推進員等)

気仙沼市地域包括支援センター(ケアマネージャー等)

気仙沼市社会福祉協議会(生活支援相談員、復興支援コーディネーター等)

気仙沼NPONGO連絡会参加団体

その他、市関連課の職員など E



・東松島:

2012 年 5 月 23 日(水) 13:30～15:30 @東松島市社会福祉協議会

講師:大川 弥生氏 (独立行政法人 国立長寿医療研究センター 生活機能賦活研究部 部長)

参加者:65 名

東松島市社会福祉協議会(生活復興支援センター)、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、NPONGO等

・亘理、山元、七ヶ浜:開催要請があり、現在調整を行っている。

ネ) 気仙沼大学ネットワーク

気仙沼市の復興を支援している、あるいは支援したいと考えている大学教員、研究者、学生間の情報を共有し、活動を発信するプラットフォームとなること、それらの主体が協働して行う支援活動を模索すること、加えて、気仙沼市民、気仙沼市役所、気仙沼市内外の各種団体とのプラットフォームも形成すること等を目的に、2012年1月10日に第1回準備会が開催された。その後、2012年2月27日、第2回準備会を開催。

2012年5月26日のミーティングでは、市内に設置される予定の気仙沼大学ネットワークの活動拠点、今後の活動方針等について議論を行っている。れんぷく/JPFとしてオブザーバー参加し、継続して情報収集と共有を行う予定。

【主な参加大学】

青山学院大学、神奈川大学、京都工芸繊維大学、近畿大学、慶應義塾大学、滋賀県立大学、首都大学東京、千葉大学、中央大学、東京大学、東北学院大学、東北工業大学、北海道大学、宮城大学、東京理科大学、滋賀県立大学、高知工科大学、明治学院大学、横浜市立大学、神戸大学、東北芸術工科大学、立正大学、早稲田大学等

ノ) JCN現地会議

被災地で活動する団体のこれからに向けて、より具体的な連携強化の機会を提供することを目的に、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)との共催で年4回開催する。開催に際し「学ぶ」「深める」「つながる」をキーワードとし、県域で検討したい共通課題をテーマにする。

第1回 JCN 現地会議 in 宮城

開催日時:2011年5月25日(水)14:00~17:30 @仙台国際センター 中会議室

テーマ:「復興を視野に入れ、今、必要なこと。」

参加者:96名

主催:東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)

第2回 JCN 現地会議 in 宮城

開催日時:2011年12月2日(金)13:00~17:00 @TKP ガーデンシティ仙台 ホール B-2

テーマ:「これからのために、学ぶ。知る。つながる。」

参加者:96名

主催:東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)

共催:みやぎ連携復興センター

協力:社会福祉法人中央共同募金会、NPO 法人日本ファシリテーション協会、被災地をメディアでつなぐプロジェクト『笑顔311』

第3回 JCN 現地会議 in 宮城

開催日時:2012年2月14日(火)14:45~18:00 @松島 花ごころの湯 新富亭 コンベンションホール

テーマ:「みなし仮設・在宅避難者への支援を考える。」

参加者:180 名

主催:東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)

共催:みやぎ連携復興センター

協力:NPO 法人日本ファシリテーション協会、被災地をメディアでつなぐプロジェクト『笑顔311』

ハ) 石巻の支援をつなぐ会(旧石巻市被災者支援を真剣に考える会)

東北厚生局とれんぷくが連携し、石巻市行政関連部署と市社協、地元団体の連絡、協議の場を設けることを目的に、過去 2 回実施。

【第 1 回石巻市被災者支援を真剣に考える会】

2012 年 4 月 26 日(木)10:00～12:00 @石巻市社会福祉協議会「石巻市ささえあい総括センター」

【第 2 回石巻市被災者支援を真剣に考える会】

2012 年 5 月 17 日(木)10:00～12:00 @石巻市社会福祉協議会「石巻市ささえあい総括センター」

東北厚生局(復興支援室)、石巻市社会福祉協議会(災害復興支援対策課)、石巻市福祉部(福祉総務課、被災市民生活支援課)、石巻市健康部(健康推進課)、石巻公共職業安定所、東松島市地域包括支援センター、日本司法支援センター(宮城地方事務所第一事業部、東松島出張所)、東部保健福祉事務所 地域保健福祉部、石巻復興支援ネットワーク、みやぎ連携復興センター、いしのまき NPOセンター事務局、石巻ふるさと復興協議会、キャンパス東北石巻事務所、震災こころのケア・ネットワークみやぎ、チーム王冠、フェアトレード東北、祐ホームクリニック石巻

ヒ) 個別相談

【主な相談】

2011 年 7 月

・東京英語いのちの電話

東京英語いのちの電話(TELL)が IMC、AmeriCares、JDC との協働で、被災地の支援をする様々な団体を対象としたサイコロジカルファーストエイドの研修を提供しており、その案内を

・博報堂

震災後の活動を紹介したいということで、(特活)在宅緩和ケアセンター虹を紹介した。

2011 年 8 月

・AmeriCares

子どもへの支援をしている団体への助成をしたいため紹介してほしいとの相談。さなぶりファンドを紹介した。

・(財)世界宗教者平和会議日本委員会

助成先団体を紹介。せんだい・みやぎNPOセンターの布田と対応。

・NPO法人PARIF

阪神淡路大震災で培った子ども心のケアのプログラムを東北でも展開したいとの相談。国際交流協会ともだち in 名取、仙台傾聴の会、NPO法人アスイクを紹介。スタッフ向け研修会を開催した。

2011 年 9 月

- ・イーストジャパン

物資支援についての相談に対応した

- ・ルーテル教会救護

被災地での活動記録の作成についての相談に対応した。

- ・ベネッセ

子ども支援を継続して行うにあたり、地元行政、NPOとの意見交換をしたいとの相談。コーディネートをを行った。仙台市教育委員会、NPO法人まなびのたねネットワーク、ともだち in 名取などが参加。

- ・大震災子ども支援を考える会

子ども支援のNPONGOが集まり、現在の支援の状況などを考える会が開催され、れんぷくとして参加した。呼びかけ人は、政府の東日本大震災復興構想会議の委員、高成田享氏。

- ・常盤木学園高等学校

震災後の活動についてミニ講話を行った。

- ・キッズドア

活動に関する相談

- ・気仙沼市在住の個人相談

空き店舗を活用した住民のサロンを作りたい。面談後、つなプロ気仙沼川崎氏につないだ。

2011 年 10 月

- ・パソナ

被災者の雇用を支援するプログラムについての相談。せんだい・みやぎNPOセンターとともに対応した。

- ・パブリックリソースセンター

東京を拠点とする企業約 10 社による被災地支援ツアーのオリエンテーションとして、被災地の現状をれんぷくから伝えた。

- ・東北大学大学院教育学研究科人間発達臨床科学講座(発達障害学分野)

大学として食に関する支援を行いたいとの相談。NPO賢和会男の台所を紹介した。

2011 年 12 月

- ・漫画家いのうえきみどりさん

取材先についての相談に対応した。

2012 年 2 月

- ・仙台市在住の個人相談

友人有志で毛糸を集めたので被災地で活用してほしいとの相談。気仙沼NPONGO連絡会にすぎ、数団体に提供した。

2012 年 3 月

- ・東北電力株式会社／コナミスポーツ

東北電力がコナミスポーツより相談を受け、れんぷくにご連絡いただいた。コナミスポーツが気仙沼

において健康増進プロジェクトを実施する際に、NPONGOからの協力をもらいたいとの相談。気仙沼NPONGO連絡会に参加していただき、シャンティ等につないだ。

- ・(財)アジア・アフリカ国際奉仕財団

今後の活動の展開についての相談に対応した。

2012 年 4 月

- ・YY 防災ネット

資金調達に関する相談に対応した。

- ・(株)レック

社員によるボランティア活動の今後の展開に関する相談に対応した。

- ・セーブザチルドレン

今後活動を地元団体とより連携して進めていくための進め方についての相談に対応した。

- ・ACE

今後活動を地元団体とより連携して進めていくための進め方についての相談に対応した。

- ・(財)世界宗教者平和会議日本委員会

2012 年 5 月

- ・Amazon

社員有志によるボランティア活動の今後の展開に関するご相談

- ・(独)産業技術総合研究所

産総研が展開する健康増進プログラムについての相談に対応した。

- ・アステラス製薬 総務部

日本財団のご紹介。アステラス製薬の別事業部の障害者雇用により育てられた鉢植えの花を過去 2 回、多賀城市内の仮設住宅団地に寄贈して頂いた。5 月 21 日付で 3 回目のお花寄贈のご相談をメールで頂いている。

- ・電通 社会貢献・環境推進部

宮城県内の復興諸情勢について意見交換。その結果、今後の方向性として電通の本来の強みを活かした「伝えるコツ」セミナーを軸に CSR 活動をしていくことになった。

- ・楽天 ソーシャル・レスポンスビリティ・プロジェクト

いわて連携復興センターからのご紹介。楽天のできる CSR 活動についてのご相談。

フ) 支援物資コーディネート

2011 年 8 月、宮城県危機対策課より、県に届いた支援物資の在庫を出来る限り活用したいとの話があり、れんぷくがコーディネートを行うことになった。宮城県は当初市町からの要望に応じて支援物資を提供していたが、各地の社協、NPONGO を通して被災者に物資を提供することにより、よりスピーディに効率的に配送することが可能になった。物資の内容は、衣類、寝具、子供用品、介護用品、家具、インテリア、暖房用品、水、飲料類、缶詰、レトルトなど食品類、衛生用品、生活用品等多岐に渡った。

2012 年 2 月末で物資の在庫がほぼすべて活用されたことから、業務も終了した。

物資のコーディネートを行った社協、NPONGO は、のべ 350 団体あまり、提供した物資は 50,300 箱

あまりに及んだ。

③ はぐくむ事業

ア) 復興チャレンジ塾

被災者自らの復興に向けたこと起こしを応援し、地域の自律的な復興につなげることを目的として、活動応援金の提供および活動応援講座を実施する。2012 年春募集においては、仙台市・多賀城市・名取市・岩沼市のいずれかの地域において、震災復興に向けた活動をしている非営利団体を対象団体とした。次回以降、対象地域を宮城県内全域に広げる予定である。

対象とする活動は、被災者自らによる被災コミュニティの活性化を図る活動とする。

【2012 年春 助成 8 団体】

美田園ミツバチの会(名取市)、岩沼市協働のかけはし隊(岩沼市)、がんばっと!!玉浦実行委員会(岩沼市)、たかさご復興支援ネットワーク(仙台市)、方言を語り残そう会(名取市)、関上ルネッサンス2021(名取市)、がんばっぺ岡田の会(仙台市)、高橋公園仮設住宅自治班(多賀城市)

④ しらべる事業

ア) 応急仮設住宅生活環境調査

<調査目的>

宮城県において、東日本大震災による被災者の応急仮設住宅への入居が完了しつつある状況を踏まえ、応急仮設住宅(プレハブ)団地(以下、仮設団地)の立地環境及び地域コミュニティ活動の状況確認を行い、調査結果から課題を整理し、行政をはじめとした関係団体が必要な対応策を講ずるための基本情報を得ることを目的とした。

<調査手法>

調査期間：平成 23 年 10 月 31 日(月)～平成 24 年 1 月 13 日(金)

調査対象：仮設団地設置 15 市町(仙台市、石巻市、塩竈市、気仙沼市(岩手県一関市千厩町及び室根町を含む)、名取市、多賀城市、岩沼市、東松島市、亶理町、山元町、七ヶ浜町、女川町、南三陸町、大郷町、美里町)の全仮設団地 414 団地(福祉仮設住宅団地含む)のうち、既に入居済世帯がある全 408 団地(うち有効回答は 406 団地(有効回答率=99.51%))

調査工程：

- ・仮設団地の生活機能並びに周辺環境(設置場所の立地条件、交通手段等)及び地域コミュニティ活動の状況把握に資する調査票の作成

- ・受託者である特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター(みやぎ連携復興センター)が、緊急雇用創出事業に基づき、23名の調査員を雇用し、2名1チームを担当地域に配置、また、調査員のマネジメントを行うため以下の5団体に協力を依頼した。

- つなぷろ気仙沼

- つなプロ南三陸

- (特活)いしのまきNPOセンター
- (特活)石巻復興支援ネットワーク
- (特活)石巻スポーツ振興サポートセンター
- 国際交流協会ともだち in 名取)

・調査チームにより、

- 各仮設団地の生活機能並びに周辺環境(設置場所の立地条件、交通手段等)に関し、徒歩ないし自動車による実測調査
- 各仮設団地の生活機能並びに周辺環境、及び地域コミュニティ活動の状況に関し、各仮設団地の代表者(自治会長や仮設団地管理団体(社会福祉協議会等の見守り相談員等))に対する聞き取り調査
- なお、実測調査及び聞き取り調査は1団地につき2日間程度で実施し、各団地を移動しているため、調査実施日以降の状況の変化は反映されていない。

・調査チームが作成した調査票をもとに、項目毎、団地毎、団地規模毎、に集計及び分析し、結果に基づき、課題を整理

<調査分析結果の報告にあたって>

本調査は、東日本大震災による宮城県の応急仮設住宅(民間賃貸住宅借り上げ含む)約47,000世帯のうち約22,000世帯が生活しているといわれるプレハブ仮設住宅団地の生活機能及びコミュニティ機能の実態把握を目的として、全仮設団地414団地のうち入居済世帯がある408団地(うち有効回答は406団地(有効回答率=99.51%))において、仮設団地の自治会長や仮設団地管理団体(社会福祉協議会等の見守り相談員等)(以下、代表者)から直接聞き取り調査等を行った。

また、本調査は、東日本大震災から8カ月を経た平成23年11月から平成24年1月にわたる時期に実施され、既に応急仮設住宅への入居が終わり、地域によっては各自治体や支援団体等及び団地住民が、自治会をまさに形成しつつある時期であった。

そのため、得られたデータについては、統計的有意差が出る全戸調査や無作為抽出による十分な回答数を有するアンケート調査とは異なり、代表者の思考等個人的なバイアス(先入観・偏りなど)があり、代表者による回答に一部主観的評価が含まれていることは免れない。また、市町ごとの被災規模(甚大さ)及び状況の違い、仮設団地の規模の違い等により、団地のコミュニティ形成度合にばらつきが見られる結果となった。

さらに、調査対象としてグループホーム等の福祉仮設住宅団地を含んでいるため、一部特異値が表れる結果となった。

調査結果については、宮城県のホームページに掲載を行い、また、必要に応じて、各市町で報告会を行う。すでに実施した市町としては、気仙沼市、東松島市。

イ) NPO 等による震災復興支援活動実態調査

- ・事業の目的

東日本大震災による被災地において、NPO 等が取り組んでいる震災復興支援活動について、活動している団体や活動概要について調査し、その情報を活用することにより、宮城県における震災復興事業の円滑な実施を図る。また、被災地における NPO 等による連携を促進し、効果的な震災復興支援活動を支援する。

・事業内容

1. 宮城県内の沿岸部、内陸部の各市町村において活動する NPO 等の活動実態調査アンケートを行い、震災以降に活動する団体の活動概要、状況に関する情報を収集した。

調査依頼先: 各社会福祉協議会、各ボランティアセンター、各市町村 NPO 担当課、NPO 等中間支援組織、被災地における復興支援団体等

以上の既存情報提供以外のものについては、地域で復興支援活動をしている団体4団体に依頼し、ヒアリングやフォローアップ調査をおこなった。

2. 各市町村において、既に行われている会議等に参加し情報提供を依頼、また情報交換等を催し、既存の団体情報のほか震災後に立ち上げた団体等の発掘と情報収集を行った。

・実施期間 2012 年 1 月 5 日～2012 年 3 月 30 日

・調査対象場所

仙台市、気仙沼市、女川町、南三陸町、石巻市、東松島市、松島町、多賀城市、塩釜市、七ヶ浜町、利府町、名取市、岩沼市、亘理町、山元町、登米市

・調査結果

①アンケート発送調査団体数 約 1800 団体 うち 回答団体数 568 団体

②地域での既存会議への参加、または情報交換会開催地域

○石巻市 30 団体(人数の詳細不明)

○気仙沼市 25 団体(人数の詳細不明)

○東松島市 15 団体(人数の詳細不明)

○多賀城市、塩釜市、七ヶ浜町 1回:8団体 18 名

○名取市 2回:25 団体 38 名

○岩沼市 1回:18 団体 のべ 121 名

・事業実施における成果品

調査団体概要データ(エクセルデータ)、同情報紙媒体

・その他

本調査は、アンケート発送時点でカバーしきれていない団体や地域による回収具合の差異が発生しており、本調査の回答全数サンプルが、宮城県内の支援活動団体の現状を代表しているとは、必ずしもいえない場合がある。また、調査結果については、回答データの中でアンケート発送時点で活動を停止した団体、復興支援活動をしていない可能性のある団体、県外のボランティアグループ、企業や個人の情報なども含まれている。団体の連絡先については、回答調査票をそのまま転記しているため、記入ミス等の可能性もある。

⑤ その他

ア) Datefm クレッシェンドへの協力

1. 番組概要

- Datefm『Crescendo(クレッシェンド)』: 毎週(月)～(金) AM8:20-11:00
<http://www.datefm.jp/crescendo/>
- 聴取層(※震災前に放送していた同時間帯番組のデータ)
☐出勤途中の男性(20～50代)や、主婦(30～40代)が多い。
☐聴取率は2～7, 8%(リスナーは常に2万人以上)
- 担当者
☐ディレクター 菅井文彦さん: f_sugai@datefm.co.jp, 090-8257-0817
☐取材スタッフ 渡辺麻奈美さん: m.watanabe.427@gmail.com, 090-6222-8390.

2. 提携企画コーナー概要

- 毎週(水) AM10:40～(5分強) ※現状2013年3月末までは継続予定
- 担当パーソナリティ: 石垣のり子さん
- ご出演頂く方: 復興支援活動に携わる方(基本的には宮城で活動されている方)
 地元グループ、地元団体、自治体、NPO・NGO、市町社協など ※出演者一覧は別紙参照
 (被災者ご自身が復興に向けがんばっている様子を伝えたいため、地元の団体を優先してご紹介したい)
☐イベントのPRを兼ねる等、ラジオにご出演頂くことにより団体にもメリットがあると尚良い。
☐一地域に偏らないよう、県内の沿岸13市町を中心に、各市町3～4団体ずつ万遍なく回るようにする。
- 内容: 電話による生放送インタビュー(電話のつながる環境であれば、どこからでもご出演可能)
 →活動内容の異なる様々な支援団体それぞれの視点から、現状を伝えて頂く。
☐各団体の現在の活動状況
☐活動をしていく中で“見えた”“感じた”被災地や支援の現状、課題 等

No	月日	団体名	肩書き	出演者
1	2011/10/19	みやぎ連携復興センター	事務局長	佐野哲史
2	2011/10/26	仙台青年会議所	理事長	茂木宏友
3	2011/11/2	(一般社団) パーソナルサポートセンター	安心見守り協働事業部 代表	立岡学
4	2011/11/9	(特活) ジャパンプラットフォーム東北事務所	所長	明城徹也
5	2011/11/16	(特活) せんだい・みやぎNPOセンター	代表理事	紅邑晶子
6	2011/11/23	日本赤十字社 東日本大震災復興支援推進本部	事務局救護・福祉部	森本真理
7	2011/11/30	東松島復興協議会		木村正樹

8	2011/12/7	石巻復興支援ネットワーク(やっぺす石巻)	代表	兼子佳恵
9	2011/12/14	(特活)石巻スポーツ振興サポートセンター	代表	松村善行
10	2011/12/21	つなプロ 南三陸	代表	内野知研
11	2011/12/28	つなプロ 気仙沼	代表	川崎克寛
12	2012/1/4	国際交流協会ともだち in 名取	事務局長	若山陽子
13	2012/1/11	多賀城市市民活動サポートセンター	センター長	工藤寛之
14	2012/1/18	(株)ファミリア		寺田麻里絵
15	2012/1/25	みやぎ連携復興センター	事務局長	佐野哲史
16	2012/2/1	(特活)ネットワークオレンジ	代表	小野寺美厚
17	2012/2/8	協同組合 みやぎマルチメディア・マジック 「震災 復興地域かわら版『みらいん』」	編集長	岡崎裕子
18	2012/2/15	がんばっと！！玉浦実行委員会	企画部長	氏家義明
19	2012/2/22	(特活)アクアゆめクラブ	災害復興支援事業 リーダー	金丸博和
20	2012/2/29	塩釜市ふれあいサポートセンター	所長	大浦満
21	2012/3/7	女川町社会福祉協議会		須田めぐみ
22	2012/3/14	ふくしまれんぶく		江川和弥
23	2012/3/21	いわてれんぶく		鹿野順一
24	2012/3/28	みやぎ連携復興センター	センター長	紅邑晶子
25	2012/4/4	みやぎ連携復興センター	事務局長	佐野哲史
26	2012/4/11	がんばっぺ岡田の会(仙台)		菅野聖子
27	2012/4/18	美田園ミツバチの会(名取)		高橋あつ子
28	2012/4/25	協働のかけはし隊(岩沼)		渡辺美恵子
29	2012/5/2	高橋公園仮設団地自治班(多賀城)		菅原和雄
30	2012/5/9	方言を語り残そう会(名取)		清水みね
31	2012/5/16	閑上ルネッサンス 2021(名取)		引地慶記
32	2012/5/23	たかさご復興支援ネットワーク(仙台)		吉田祐也
33	2012/5/30	NPO 法人まなびのたねネットワーク		田中聡子

イ) 復興庁による NPO/NGO 向け政府予算説明会

○平成 23 年度第三次補正予算に関する情報提供と説明会

東日本大震災復興対策本部事務局より西田紫郎参事官補佐をお招きし、仙台と東松島の 2 会場にて、平成 23 年度第三次補正予算に関する NPO/NGO 向け説明会を開催した。



➤ 第1回：2011年12月20日(火)19時-21時@仙台市市民活動サポートセンター研修室5

【出席者名簿】

No.	氏名	団体名	役職
1	伊藤 豊生	NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台	理事
2	伊藤 あづさ	ぶれいん・ゆに〜くす	代表理事/統括ディレクター
3	大橋 雄介	NPO 法人アスイク	代表理事
4	小澤 義春	みやぎ生活協同組合	生活文化部長
5	小野寺 健	一般社団法人 MAKOTO	内務
6	青木 ユカリ	コミュニティ・ワークス	代表
7	福田 文	一般財団法人地域創造基金みやぎ	プログラム・オフィサー
8	内山 誓一郎	一般財団法人地域創造基金みやぎ	プログラム・オフィサー
9	北山 隼	特定非営利活動法人 POSSE	事務局スタッフ
10	片桐 豊彦	仙台港背後地6号公園仮設住宅自治会	役員
11	芳賀 正	岡田西町仮設住宅自治会	役員
12	岡坂 健	東日本大震災支援全国ネットワーク	事務局
13	末永 幸紀	和田町内会	役員
14	村上 こういち	和田町内会	役員
15	松崎 修一	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	仙台事務所 所長
16	寺沢 信志	仙台市森林アドバイザーの会	評議員
17	永見 光三	JICA 東北支部	企画役
18	菊地 克三	夢ネット21	会長
19	河崎 清美	RQ 市民災害救援センター(11月末まで)	地域支援チームリーダー
20	田中 可亮	NPO 災害復興支援コーディネーター 蓮笑	事務局長

21	塚原 俊也	くりこま高原自然学校	職員
22	吉田 建治	日本 NPO センター	情報部門主任
23	須藤 敏子	みやぎ生活協同組合	生活文化部 福祉文化事業統括
24	富川 伊勢雄	生活習慣改善センター	理事長
25	遠藤 衛	国際協力 NGO センター	政策アドバイザー
26	浦田 紗智	RQ 市民災害救援センター	
27	岡田	日本 IT イノベーション協会	
28	武山 広美	仙台市役所 市民局 市民協働推進部 市民協働推進課	課長
29	藤原 航	仙台市市民活動サポートセンター	
30	吉田 祐也	仙台市市民活動サポートセンター	
31	伊藤 浩子	せんだい・みやぎ NPO センター	
32	布田 剛	せんだい・みやぎ NPO センター	

➤ 第2回：2011年12月21日(水)10時-12時@東松島市コミュニティセンター2階会議室

【出席者名簿】

No.	氏名	団体名	役職
1	下藤 実	(社)青年海外協力協会	仙台業務調整員
2	榎谷 和子	NPO 法人 MAKE THE HEAVEN め組 JAPAN	現場リーダー
3	村島 弘子	災害移動支援ボランティア Rera	移送スタッフ
4	日方 里砂	特定非営利活動法人パルシック	石巻事業部漁村支援
5	今里 拓哉	NPO 法人 アイキャン	海外事業部
6	大石 宗貴	石巻ふるさと復興協議会	マネジャー
7	加藤 奈保美	特非)ワールド・ビジョン・ジャパン	課長
8	村井 厚子	特非)ワールド・ビジョン・ジャパン	チームリーダー
9	伊藤 寿朗	EM エコクラブみやぎ	事務局次長
10	野澤 タキ子	(特)みやぎ身体障害者サポートクラブ	理事長
11	畠 一樹	つなプロ気仙沼	副代表
12	阿部 智美	NPO 法人いしのまきNPOセンター	事務局
13	西田 典昭	東松島復興協議会	幹事
14	市原 信行	サポートチーム G	代表
15	西村 真由美	JEN	プログラムオフィサー
16	四倉 禎一郎	(独)国際協力機構 (JICA)	地域復興推進員 東松島市担当
17	今井 優作	石巻復興支援ネットワーク	事務局職員
18	近藤 香菜子	つなプロ気仙沼	事務局
19	小松 武	つなプロ気仙沼	事務局
20	中川 政治	石巻災害復興支援協会	事務局

21	難波 和幸	東松島市 復興政策部 市民協働課 協働推進班	主任
22	今井 香菜	JEN 石巻事務所	スタッフ(生計回復事業担当)
23	内野 知研	つなプロ南三陸	エリアマネージャー

○平成 24 年度予算に関する情報提供と説明会

前回に引き続き、復興庁より西田紫郎参事官補佐をお招きし、仙台と東松島の 2 会場にて、平成 24 年度政府予算に関する NPO/NGO 向け説明会を開催した。

両会場とも、NPO 等が活用可能な政府の財政支援事業について活発な意見交換が行われ、補助金獲得のポイントから漁業支援等個別具体的な案件に関するご相談まで、西田氏より丁寧にご説明頂いた。

【配布資料】

- 今後 NPO 等が活用可能な政府の財政支援について
<http://www.reconstruction.go.jp/topics/npoyosan0414.pdf>
- 復興支援に向けた多様な担い手のロードマップ
<http://www.reconstruction.go.jp/topics/2012/04/000726.html>
- 情報の活用に関する事例の紹介について
<http://www.reconstruction.go.jp/topics/JYOUHOOU.pdf>
- 応急仮設住宅入居者への支援の拡充等について(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000028bmx.html>

➤ 第 1 回：2012 年 4 月 18 日(水) 18:30-20:30 @仙台市戦災復興記念館 4 階第 2 会議室

【出席者名簿】

No.	名前	所属	役職
1	小林 幸司	(公財)MELON	事務局統括
2	松村 善行	(特非)石巻スポーツ振興サポートセンター	理事長
3	佐藤 正実	NPO20 世紀アーカイブ仙台	副理事長
4	辻本 利雄	NPO 法人セルフメディケーション推進協議会	理事
5	村田 正弘	NPO 法人セルフメディケーション推進協議会	専務理事
6	和田 寿子	NPO 法人アスイク	
7	菊地 竜生	NPO 法人オハイエ・プロダクツ	理事
8	唐澤 晋平	NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク	事務局長
9	菅邊 衣里	NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク	
10	佐々木 友	NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク	
11	澁谷 直美	ガーネットみやぎ	代表
12	佐藤 崇	河北新報社 編集局報道部	記者
13	明城 徹也	ジャパン・プラットフォーム	東北事務所長

14	富澤 伊勢雄	生活習慣改善センター	
15	松崎 修一	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	仙台事務所長
16	布田 剛	せんだい・みやぎ NPO センター	
17	伊藤 博章	せんだい・みやぎ NPO センター	
18	高橋 修太	せんだい・みやぎ NPO センター	
19	福田 文	地域創造基金みやぎ	
20	江川 沙織	地域創造基金みやぎ	
21	佐々木 佑	地域創造基金みやぎ	
22	梅澤 雅男	ナースケアー	取締役
23	小林 深吾	ピースボート災害ボランティアセンター	プログラムオフィサー
24	山口 幸男	ホープワールドワイド・ジャパン	仙台支局長
25	草野 祐子	みやぎジョネット	
26	今藤 雄	ワンファミリー仙台	
27	伊藤 あづさ	一般社団法人 ぶれいん・ゆに〜くす	代表理事
28	配島 一匡	共生地域創造財団	事務局長
29	岩切 千佳	特定非営利活動法人キッズドア	復興支援担当
30	大高 いずみ	難民を助ける会	
31	大松 修司	難民を助ける会	
32	土井 邦義	難民を助ける会	
33	山崎 哲	日本国際ボランティアセンター (JVC)	震災支援現地統括
34	国田 希望	復興庁宮城復興局	係員
35	菅原 清香		

➤ 第2回：2012年4月19日(木) 10:00-12:00 @東松島市コミュニティセンター1階集会室

【出席者名簿】

No.	名前	所属	役職
1	阿部 真司	NPO 法人 BHN テレコム支援協議会	宮城事務所所長
2	本間	NPO 法人 BHN テレコム支援協議会	
3	阿部 智美	特定非営利活動法人いしのまき NPO センター	事務局
4	遠藤 学	NPO 法人 DoTank みやぎ	理事長
5	大石 宗貴	石巻ふるさと復興協議会	マネジメントディレクター
6	大谷 亜理沙	石巻ふるさと復興協議会	
7	近藤 祐佳	認定 NPO 法人アジア日本相互交流センターICAN	
8	今野 和洋		
9	櫻井 絵美	NPO 法人グッドニュース・プロジェクト	副理事長兼事務局長
10	鈴木 広光		

11	原田 豊	BIG UP 石巻	代表
12	平井 琴音	(社)復興応援団	事務局長
13	榊谷 和子	め組 JAPAN	チームリーダー
14	松原 忠史	特定非営利活動法人とめタウンネット	理事
15	山本 啓一郎	復興庁宮城復興局	政策調査官
16	金須 健	Caring for the Future Foundation Japan	
17	三谷	つなプロ気仙沼	
18	三浦 文浩	宮城県震災復興・企画部	課長補佐(班長)
19	平塚 寿男	地域復興支援課復興支援第二班	主事

